

加古川中央市民病院

[心臓血管外科](#) [呼吸器外科](#) [小児外科](#) [整形外科](#) [形成外科](#) [眼科](#) [耳鼻咽喉科](#) [皮膚科](#)
[泌尿器科](#) [脳神経外科](#) [放射線科](#) [病理診断科](#)

【心臓血管外科】

副理事長（兼）副院長（兼）心臓血管外科主任科部長（兼）診療支援部長（兼）医療安全推進室長
大保 英文

心臓血管外科の年間の症例数は開心術（弁膜症、冠疾患、大血管）90例、腹部大動脈瘤30例（ステントグラフト含む）、末梢血管30例程度です。ステントグラフトは年々増加しており、昨年は30例を超えました。

週刊スケジュールは月曜水曜金曜が手術日。火曜木曜が病棟回診、外来の日です。

また月曜日は朝8時から症例検討会、水曜日は朝8時から抄読会を行っています。

少人数で重症度の高い症例を扱っており、疾患のバリエーションも広いので、短期間の研修でも相当な経験をする事が可能です。末梢血管は循環器内科、形成外科とのチーム医療を行っています。毎週火曜日の合同回診では様々な足病を見ることができます。前期研修に外科系が必修であった時代には、多くの研修医が当科に回ってこられました。チャンスがあれば一度は見ておきたい、経験しておきたいと思われる診療科の一つのようです。

将来心臓外科を専攻するつもりのない先生も大歓迎です。また当科の研修の後に心臓外科を専攻に選ばれた先生もおられます。

ぜひ一度ダイナミックな心臓外科の雰囲気を経験してみてください。

【呼吸器外科】

呼吸器外科 主任科部長
岩永 幸一郎

東播磨地域の中核病院として呼吸器疾患を中心とした治療を行っている。一般市中病院であるため、肺癌に対する根治的肺切除術(胸腔鏡手術や開胸手術)から気胸・膿胸手術、確定診断目的の胸腔鏡下肺・胸膜切除生検等の幅広い症例を経験することが可能である。手術のみならず、ベッドサイドでの胸腔ドレナージ等の手技も習得可能である。将来呼吸器疾患を目指す人はもちろん、そうでない人も一度呼吸器外科を経験してほしい。

【小児外科】

小児外科主任科部長（兼）こどもセンター副センター長
安福 正男

当院は東播磨地域の小児医療の基幹病院として、また地域周産期医療センターとして新生児医療の拠点病院としてなくてはならない病院となっています。

軽症から重症まで押し寄せる多数の患者を前にして、小児科の先生方が日夜奮闘している中、新生児、小児の外科的疾患に迅速に対応できるようにと、2000年9月から小児外科が開設されました。2009年4月からは常勤の小児外科専門医が2人となり、手術、研修の体制も整ったので、ようやく日本小児外科学会認定施設（兵庫県に3施設あるうちのひとつ）となりました。

これまでに6人の小児外科専攻医、2011年からは4人の初期研修医と1人の後期研修医を受け入れ、共に力を合わせて小児外科の診療に励んできました。

年間手術症例は250-300例、新生児手術症例は10-15例です。

鼠径ヘルニア、虫垂炎の手術をはじめとて、頸部、胸部、腹部、肛門と多岐にわたる小児、新生児の外科的疾患を経験することができます。

また、神戸大学小児外科関連施設のひとつとして、他の4つの小児外科施設と勉強会等を行って、お互いの連携を深めています。

小児医療を専門にする先生はもちろん、外科医を目指す先生もぜひ一度小児外科での研修にきてください。

【整形外科】

診療部長（兼）整形外科主任科部長

西山 隆之

整形外科はマイナー外科の一つとされています。しかし、整形外科は新生児から超高齢者まですべての年齢層の運動器（骨、関節、筋肉、靭帯、末梢神経など）の障害を対象としており、手術のみではなく、様々な保存的治療、骨粗鬆症やリウマチの薬物療法、運動器のリハビリテーションも担当しています。そのため、患者数は非常に多く、その需要は年々増加しています。

整形外科の患者さんの訴えの多くは、痛みや機能障害であるため、それらを治療して改善させることができれば非常に喜ばれます。我々が力を入れている関節外科はその代表例です。関節の痛みのために日常生活に大きな支障を生じている患者さんに、その患者さんの年齢や仕事など様々な要素を考慮して、一番適した治療をよく話し合いながら選択していきます。その治療によって患者さんのQOLは明らかに改善し、それがきっかけで全身状態までよくなる場合も少なくありません。このように患者さんにしっかりと向き合い、よくなった患者さんと喜びを共感できる事は、医師としての大きなやりがいにもなると思います。当院整形外科では、多くの外傷に加えて、様々な関節疾患の治療を専門的に行っています。ぜひ整形外科を見に来て、このやりがいを一緒に感じてみませんか。

【形成外科】

主任医長

岩谷 博篤

皆さん形成外科という診療科はご存知ですか？知っていても実際どういう治療を行っているかは明確にイメージできないのではないのでしょうか。

形成外科は外見上の変形を治療する外科です。診療内容は多岐にわたり、熱傷、顔面外傷（顔面骨骨折を含む）、唇顎口蓋裂・合指症・多指症・内反症・折れ耳や埋没耳・臍突出症などの先天奇形、癌の再建、皮膚・皮下腫瘍、傷跡・ケロイド、褥瘡・足壊疽などの難治性潰瘍、といったものがあります。その他、当院では静脈瘤、リンパ浮腫といった治療も行っております。

当院では特定の疾患に偏らず、上記に示した通り、ほぼ形成外科全般の治療を経験することが可能です。

初期研修医である皆さんはまず基本診療科の研修から行うことになると思いますが、形成外科は体の様々な部位を診療範囲にしており、なかなか奥の深い診療科です。

共に診療を行い、お互い切磋琢磨していくつもりです。興味のある先生はどうぞ形成外科の研修に参加してください。

【眼科】

眼科主任科部長
原 ルミ子

当科では、東播磨地区中核病院のひとつとして、様々な眼科疾患に対応しております。東播磨地域の中核となる NICU があるため、眼科においても小児疾患に対し力を入れております。未熟児診療から斜視、内反症、先天鼻涙管閉塞症とあらゆる小児疾患治療を手がけております。加齢黄斑変性症に対しては、東播磨地域で唯一治療対応できる病院として、検査・診断から治療に至るまで対応可能です。また、救急疾患に対しましても、網膜剥離、外傷等随時迅速な対応を行っております。

【耳鼻咽喉科】

耳鼻いんこう科主任科部長
安井 理絵

当院では 2 年の臨床研修のうち、選択期間に耳鼻いんこう科をローテートしていただくことができます。将来耳鼻いんこう科医を目指そうと思っている方はもちろん、他科を考えている方も大歓迎です。

大学病院での耳鼻いんこう科のイメージは当院のような市中病院とはかなりかけ離れています。こちらでは一般的な良性疾患が中心で、外来、入院・手術の 2 本柱で診療をしています。外来初診から入院・手術を経てまた外来での経過観察と一人で一貫して患者さんに向き合えるのも市中病院ならではのと思います。

耳鼻いんこう科で扱う疾患は上気道炎症性疾患、鼻出血、めまいなど救急で目にすることも多いですので症例を経験するという意味でもお勧めです。

特に当院の特色として小児症例が多いため、小児科医を目指す方が中耳炎や気道疾患の研修に来られることも多く、短期間ではありますが少しはお役に立てているかと自負しています。

何事も「百聞は一見に如かず」といいます。

一度耳鼻いんこう科もお試し下さい。

【皮膚科】

皮膚科主任科部長
山田 陽三

皮膚科は内科系の要素と外科系の要素を併せ持つ診療科です。内科系の要素としては、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、皮膚感染症、乾癬、自己免疫性水疱症、血管炎、膠原病などの皮膚科独自の炎症性疾患だけでなく内臓疾患からくる炎症性疾患で見られる皮疹を視て触れて必要な血液検査や皮膚生検をして診断、治療をすることであり、外科系の要素としては、腫瘍性病変を皮膚生検し、良性、悪性のどの腫瘍にあたるかを診断しそれに見合った手術をしていくことです。他科と違うこと（醍醐味）は、皮膚生検をした病理組織を必ず皮膚科医がみて皮膚の所見とあわせて的確に診断していくことです。

皮膚科を選択されたら、まずは皮疹の視診、触診の方法を理解し、正確な表現・記載ができるようになり、皮膚科の基礎である真菌検鏡や、日常診療に欠かせない皮膚生検や簡単な手術手技の習得ができるように指導していきます。

【泌尿器科】

泌尿器科主任科部長（兼）診療支援部次長（兼）がん集学的治療センター副センター長

岡 泰彦

平成 17 年 6 月に新外来棟が竣工、平成 18 年 3 月より最新の尿路結石破砕装置の導入、平成 21 年 4 月よりホルミウムレーザー治療セットが導入され、結石全般はもとより、前立腺肥大症に対する最新治療である経尿道的レーザー前立腺核出術（Holep 手術）も可能となり、ハード面の充実は近隣施設と比べても勝るとも劣らないものがあると自負しています。

【脳神経外科】

脳神経外科主任科部長
山元 一樹

播磨地区最古の脳外科として歴史は長く、その間において多くの地域医療機関との良好な連携網が構築されております。 診断・治療機器装備： 64 列 CT、1.5 テスラ MRI 各 2 台、脳血管撮影装置、放射線治療装置

【放射線科】

院長補佐（兼）診療支援部長（兼）がん集学的治療センター長（兼）
放射線科主任科部長
土師 守

単純 X 線写真、胃・大腸等の透視検査、CT 検査、マンモグラフィー、血管造影等の X 線を用いた各種の検査をはじめ、MRI 検査や最近では癌診療に必須の検査である PET-CT などの多様な検査実施と画像診断を行っています。また IVR については、肝動脈塞栓療法や、ラジオ波焼灼療法に加え、CT ガイド下での生検やドレナージ、さらには各種の出血に対する緊急止血術などを行っています。

当院は、通常の内科、外科診療に加え、小児科及び産科診療においては東播磨地区の中核病院であるため、小児科、産婦人科の画像診断も多く経験できます。さらには産科救急 IVR にも対応しているため、広範な経験を積むことが可能です。

将来、放射線科医を目指す方だけでなく、どの専攻科を選択するにしても、初期研修時に放射線科の研修を受けることは非常に有益な経験になると思います。是非とも、当院での研修を希望して頂きたいと思います。

【病理診断科】

医師
岡村 明治

病理診断は直接患者さんの質的な最終診断に結びつくもので、正確かつ迅速な病理診断で臨床全科に対応し、各診療科の医療水準の向上に寄与しています。また、単に病理診断を下すだけでなく、多彩な患者さんへの具体的対応の consult や、他院の標本の consult も受けています。

さらに、毎月、手術・剖検例を基に各診療科と合同の検討会を行ない、当院で施行された医療の質を再検討しています。今日の目覚ましい分子生物学・遺伝子学を中心とする医学の進歩により一部の疾患概念も変貌し、特に癌治療では癌細胞の標的製剤が毎年開発、追加され、製剤の臨床適応のため癌遺伝子の検索もルーチンとして必要になって来ています。